

中国・大連通信

(北九州市大連事務所活動報告)

中華料理といえば、どんな印象を思い浮かべますか？「こってりしてる」、「量が多い」、「辛い」中華料理と一言で言っても地域差が大きいので一概には言えませんが、これらの表現は概ね正しいと言えます。では、中国のお菓子に目を向けるとどうでしょうか？実は甘さ控えめで素朴な味のものが多いのです。

今回は、中国の飲食物の「甘さ」に焦点を当てたいと思います。

ポイント

- ・「不太甜（甘過ぎない）」は褒め言葉
- ・お菓子は甘くないのに、お茶はとても甘い
- ・若者世代を中心とした「健康志向の高まり」

Topic 01 中国人にとっての「甘い」

中国でも日本のお菓子はとても人気だ。しかし、中国人が日本のお菓子を口にすると多くの人が、「太甜了(甘過ぎる)」との感想を口にする。最近では「不太甜(甘過ぎない)」という言葉がおいしいとの意味で使われることもあるそうだ。

しかしお茶に目を向けると、中国では砂糖入りの甘い緑茶や烏龍茶が販売されている。これらがとても甘く、「低糖」の商品でも恐らく多くの日本人の口に合わないだろう。逆に、ある知り合いの中国人は、日本でペットボトルのお茶を飲んだ際、「味がない」と感じたらしい。

隣国ではあるが日本と中国では、飲食文化が異なることも多く、例えば今回例にした、「お菓子は甘くないのにお茶は甘い」という事も飲食文化の違いを表す一例であり、我々日本人にとっては少し不思議な感覚に陥るかもしれない。



サントリー社の烏龍茶
「無糖(左)」と「低糖(右)」が販売されている。

Topic 02 健康志向の高まり

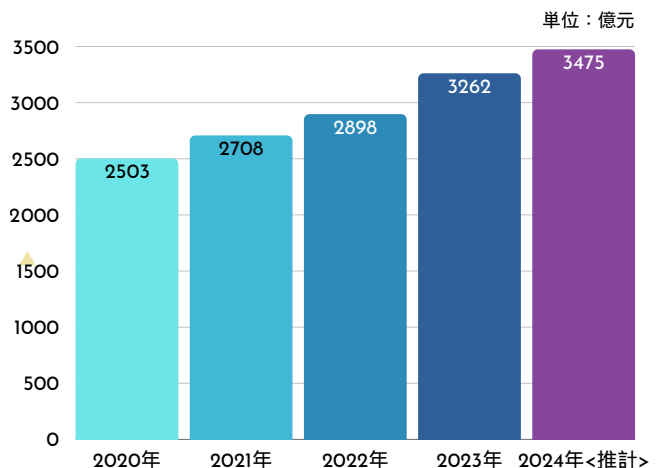
中国のお茶は甘いと前述したが、近年は「無糖」のお茶も増えている。中国のお菓子が甘さ控えめになったのも近年のことで、この要因の一つとして考えられるのは、「健康志向の高まり」だ。

例えば、中国の保健食品市場は、2020年から2024年までの5年間で40%近く拡大しており、中国における「健康志向の高まり」が伺える。

特に若者世代がこの傾向が強く、甘いお茶を好むのは、昔から慣れ親しんだシニア世代が中心で、若者世代の多くは「無糖」を好んで飲むという。

日本人にとって美味しいもの=中国人にとっても美味しいものとは限らない。また、時代によってニーズは変わるものであり、その国の嗜好と時代のニーズにマッチさせることが重要だと考えられる。

中国保健食品の市場推移



出典：弗若斯特沙利文、中商产业研究院